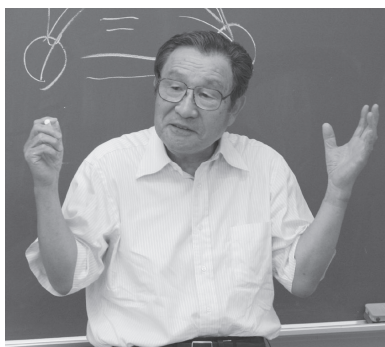
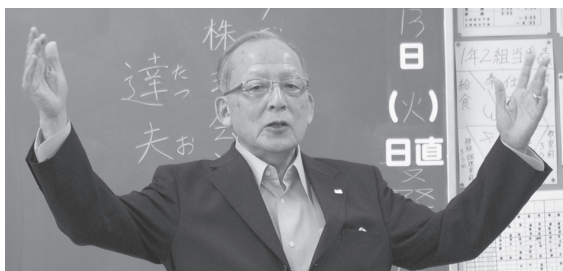




特集

学校と経営者の交流活動 2010レポート

経済同友会会員有志の草の根活動として始まった「学校と経営者の交流活動」は、2009年度で節目の10年を迎え、今年の6月には、その活動の集大成ともいえる報告書「より良き教育現場の実現に向けて一交流活動実践10年の思い」を発表した。また、2010年度からは、委員長が山中信義氏から杉江和男氏へバトンタッチ。今号では、両氏の座談会や報告書の内容、出張授業の様子など交流活動の最新動向をレポートする。



INDEX

新旧委員長座談会 経営者が教育現場で感じたこと	P.03
報告書「より良き教育現場の実現に向けて」	P.07
出張授業 墨田区立文花中学校	P.09

※学校と経営者の交流活動サイト <http://www.doyukai.or.jp/kyoiku/>

新旧委員長座談会

経営者が教育現場で感じたこと

学校と企業・経営者の交流活動推進委員会（2010年度より学校と経営者の交流活動推進委員会。以下、推進委）は、2009年度山中信義委員長の下、10年間の活動報告書を取りまとめた。経営者自らが組織的に教育現場に足を運ぶ交流活動は、着実にその成果を果している。2010年度杉江和男委員長は、前委員長の思いを受け継ぎ「さらに充実した活動を実践していきたい」と語った。座談会では、前原金一副代表幹事・専務理事をモデレーターに、交流活動の実践を通じて感じたことをテーマに意見交換を行った。



昔も今も変わらない 生徒の純粋さ

前原：推進委は、過去10年間の活動で参加した委員が延べ2,000名を超えるなど、まさに“行動する経済同友会”を象徴する委員会となっています。2002年度からこの活動に参加し、2008年度から2年間で、委員長を務められた山中さんに伺います。参加の動機は何だったのでしょうか？

山中：今もそうですが、当時から国際化の波が猛スピードで進んでいました。そんな時代に、若い人たちに世界はどうなるのか、変化に備えて今何をしておくべきかについて、早くから考えてほしいと思ったのが参加の動機です。

世界各国の子どもと比べても、日本の子どもは元気がないと思います。「自分はこれをやりたい」と

いう情報発信力が弱いことも気がかりでした。本来、子どもは強烈な意欲を持っているもの。それを「もっとストレートに出していんだよ」ということは、われわれの立場だからこそ言えることでもあるのです。

前原：実際に活動を通して、どんなことを感じられましたか？

山中：生徒に関しては、「われわれの時代と今の生徒とは違う」という先入観があったのですが、いざ交流してみると、本質的には何も変わらないと感じました。一見冷めて見えても、本心では「自分の人生を良くしたい」と純粋に思っているのです。これは新鮮な驚きでした。そして現在の教育の問題は、子どもというより、教員や保護者、さらに言えばわれわれ大人にあるのではないかと感じたのです。

教員に関しては、負担の多い仕

事にもかかわらず、情熱を持って取り組まれている多くの先生との出会いがありました。一方で、教育現場の諸問題に追われ、教育への志を忘れかけたり、迷われたりするケースもあるのではないかと思います。推進委としては、そんな先生にエールを送る活動をしていく必要があると感じました。

挑戦意欲のある 子どもに育てたい

前原：杉江さんは今年度から委員長を務められています。学校教育に関して、どのような問題意識をお持ちでしょうか？

杉江：実は大学時代に教職課程を履修し、高校の教員免許を持っています。最近是不登校やいじめ問題などが騒がれていますが、なぜそんな世の中になったのか？教育問題にはずっと関心がありました。

私は、これまでの教育が目指したところが間違っていたのではないか、という問題意識を持っています。現在は知識偏重から自主性や考える力を重んじる方向へ転換されつつありますが、教育関係者の中で意識の差が大きく、その方向性は浸透していません。

出張授業をすると、講義中に下ばかり向いている子どももいて、元気のなさを実感します。では、なぜ今の子どもは元気がないのか。それは、子どもたちに原因があるのではなく、こういう社会をつくり出した私たちに責任がある。「いい学校に入り、いい企業に勤めることがいい人生だ」という単なる安定志向の価値観によって、挑戦意欲がそがれているのだと思います。ところが、成熟社会の現在、企業は、安定志向の価値観を持った人材でなく、挑戦意欲のある人材や創造的な人材に期待をしています。ここにギャップがあります。われわれが社会で期待される人材像を伝えていくことが

必要ではないかと思います。

前原：実社会では論理的思考力や斬新な発想こそが重視されますが、そのための筋道（答え）が一つということはありません。立場が違えば答えも違います。多様性が求められているにもかかわらず、日本の教育にはそれが欠けているように思います。また地域のつながりや関心が薄いことも子どもの元気のなさの要因だと感じています。われわれの出張授業が地域社会の復活のための一助になればいいですね。

緊張感が成長を促す 教育フォーラム

前原：推進委では各地の中学校や高校に出向く出張授業だけでなく、生徒や教員を日本工業倶楽部に招いての「教育フォーラム」も開催しています。これも重要な活動になっていますね。

山中：その通りです。私は、教育フォーラムには四つの意義があると考えています。一つは、生徒、

教員、保護者、そして経営者という立場が異なる人々が同じ時間、空間を共有するということです。二つ目は、参加希望を出された学校から集まっていただくわけで、それだけ意識の高い人の集まりになり、質の高いディスカッションが行われるということ。三つ目は、基調講演に続き行われるグループ・ディスカッションが少人数で、講師と生徒が目と目を合わせながら、非常に密度の濃いコミュニケーションがとれるという点。そして四つ目は、いつもの学校でなく、歴史ある日本工業倶楽部会館での授業は新鮮であり、いい意味での緊張感が生まれるという点です。学校に出向く出張授業とはまた違った雰囲気です。語り合える重要なイベントだと思います。

教育界にも講師にも 役立った報告書

前原：さてこのたび推進委では、『より良き教育現場の実現に向けて』という10年間の活動の報告書

山中 信義

2009年度 学校と企業・経営者の交流活動推進委員会 委員長
(ペインキャピタル・ジャパン 顧問)

1947年愛知県出身。76年De Paul Universityにてビジネス・マネージメントの学位を取得後、90年INSEAD Executive Course終了。オムロン、ゼネラル・エレクトリック（GE）を経て、USSCオートスーチャー・ジャパン代表取締役社長兼最高経営責任者、日立GEライティング代表取締役社長兼最高経営責任者、Emerson Electric米国本社役員、日本エマソン代表取締役社長、日本コンラックス代表取締役会長、ペインキャピタル・ジャパン副会長を歴任し、2010年より顧問。2000年経済同友会入会。2002年より幹事。2002～03年度創発の会副座長、2003年度企業競争力委員会副委員長、教育の将来ビジョンを考える委員会副委員長、2004年度対内直接投資拡大プロジェクト・チーム委員長、2005～06年度対内直接投資推進委員会委員長、2005年度学校と企業・経営者の交流活動推進委員会副委員長、2006年度学校と企業・経営者の交流活動推進委員会運営委員、2007年度学校と企業・経営者の交流活動推進委員会副委員長、2008～09年度学校と企業・経営者の交流活動推進委員会委員長。

われわれの活動は
教育現場へのエール。



“行動する経済同友会”を 象徴する委員会です。



前原 金一

経済同友会 副代表幹事・専務理事

1944年岐阜県生まれ。66年東京大学経済学部卒業後、住友生命保険入社。経済企画庁経済研究所出向、取締役嘱託企画調査部長、取締役嘱託金融法人部長、常務取締役を経て、住友生命総合研究所代表取締役社長、取締役会長、昭和女子大学副理事長を歴任し、2010年4月より経済同友会副代表幹事・専務理事に就任。1998年7月経済同友会入会。2000～09年度幹事、2010年度より副代表幹事・専務理事。2000年度新技術戦略委員会副委員長、2001～02年度行財政委員会副委員長、2003年度行財政改革委員会副委員長、医療改革委員会副委員長、2003～04年度教育の将来ビジョンを考える委員会副委員長、2004～05年度会員セミナー委員長、2005～06年度教育問題委員会副委員長、2005～09年度学校と企業・経営者の交流活動推進委員会副委員長、2007～08年度構造改革進捗レビュー委員会委員長、2009年度「経済対策としての需要追加型・財政出動のあり方」PT委員長、市場を中心とする経済社会のあり方検討委員会副委員長、2010年度広報戦略検討委員会委員長。

をまとめられました。この報告書には、どのような思いを込められたのでしょうか？

山中：委員の間に「これまでの活動を冊子にまとめてはどうか」という意見がありました。その上で、二つの動機がありました。一つは、自分たちが見て聞いて感じたことを、より多くの人に発信したいという思いです。二つ目は、活動の真の目的を正確に伝え、お付き合いのない学校にも関係を広げていきたいという願いです。

冊子を作る過程では、校長はじめ教育関係者に意見を伺ったのですが、「教員研修の教材にしたい」「初心を思い出すきっかけになった」「保護者に対して『世の中はこ

うなんですよ』という説得材料にしたい」という非常に好意的な意見を聞くことができました。われわれ経営者の視点について、保護者からも「基本的な問題意識は同じである」との共感を得られました。

また、講師として学校に赴く委員（経済同友会会員）にも、参考書的なものになりました。子どもたちと年齢が離れているだけに、「どんな話をしたらいいのだろう」「この話は通じるだろうか」と悩まれる講師にとって一つの羅針盤になったようです。

前原：社員は社長のどんな話でもちゃんと聞きますが、子どもたちは本当に素直に反応します。子どもたちへの講演はわれわれ経営者にとって気付きも多く、非常にいい経験になると思います。経営者が出張授業を行う活動は、地方の経済同友会の間でも広がってきたようで、私は、これからの教育に対して希望を持っています。この報告書が、さらに全国でこうした活動を展開していくきっかけになることを期待したいですね。

出張授業の活動の 裾野を広げたい

前原：2010年度からは、委員長が杉江さんにバトンタッチされました。これまでの活動に対する感想や今後の抱負などをお話いただけますか。

杉江：報告書は、過去10年間の推進委の実践の集大成だと思います。報告書を渡した教育関係者からは、「バイブルとして使いたい」という声もあったと聞いています。また、経済同友会の出張授業などの外部支援を積極的に活用している学校の中には、数年で学校自体が変わり、学力が向上したというデータもあるようです。外部の講師を受け入れるような意欲のある学校の生徒は変わっていくのだと実感しました。経済同友会に対する感謝の声も聞き、確実にわれわれの思いは伝わり、活動の成果は実っていると感じました。

今後は、こうした実績の上に、さらに活動を積み重ねていきたいと考えています。具体的な今年度



今年3月に行われた教育フォーラムの様子
日本工業倶楽部にて

の計画としては、昨年度と同様の約150件の出張授業、講演会を予定しています。さらに、まだお付き合いのない中学校や小学校高学年に対して出張授業を行えるよう活動の裾野を広げ、われわれの教育に対する思いを伝えていきたいと考えています。

山中：子どもに働きかける出張授業を拡充する一方で、教員や保護者と交流する機会も増やすべきだと思います。私が教員や保護者に伝えたいことは四つあります。一つは、やはり基本が重要だということです。基礎・基本をしっかり押さえることが学力向上にもつながります。簡単と思っていても、完全にできるようになるには習練が必要で、これには努力と忍耐が要ります。二つ目は、「教育は人なり」で、学校現場における教員の人材育成の視点です。三つ目は、家庭教育の重要性です。基本的な人間性は家庭において身に付きます。教員は、保護者との摩擦を恐れず、根気よくかかわってほしい

と思います。四つ目が子どもとのコミュニケーションの質を上げること。ハートとハートがぶつかり合うほど深くかかわる中に、たくさんの気づきがあります。こうした活動こそ経済同友会は支援をしていきたいですね。

出張授業を通じて 私たちの思いを伝えよう

杉江：現在、推進委の登録会員は96名います。ぜひ、他の会員の方にも登録していただいて、出張授業に参加していただきたいと願っています。私も最初は何を話してよいか戸惑いましたが、製品サンプルなどを持って具体的な話をしたりしています。委員会では、講師のスキルアップ策として、話し言葉講座やベテラン講師によるオリエンテーションを行っています。

先日、ある講師から、3年ぶりに同じ学校へ出張授業に行ったところ、以前と比べて、学校の雰囲気がからりと変わり、イキイキしている子どもたちを見て感動した、

という話を聞きました。

出張授業の後に子どもたちに感想文を書いてもらうのですが、それを読むと子どもたちの中の変化が実感できます。こうした波を「大きなうねり」にしていきたいので、ぜひ皆さんのご協力をお願いしたい。

山中：講師は、最初の1回目は大変に感じますが、一度行ってしまえば、2回目からは気分が楽になります。まずは1回、出張授業に参加してみてほしい。今の学校現場をじかに見ることができる貴重な機会でもあり、自分自身を見つめ直す機会にもなります。われわれ自身が得ることも多いのです。

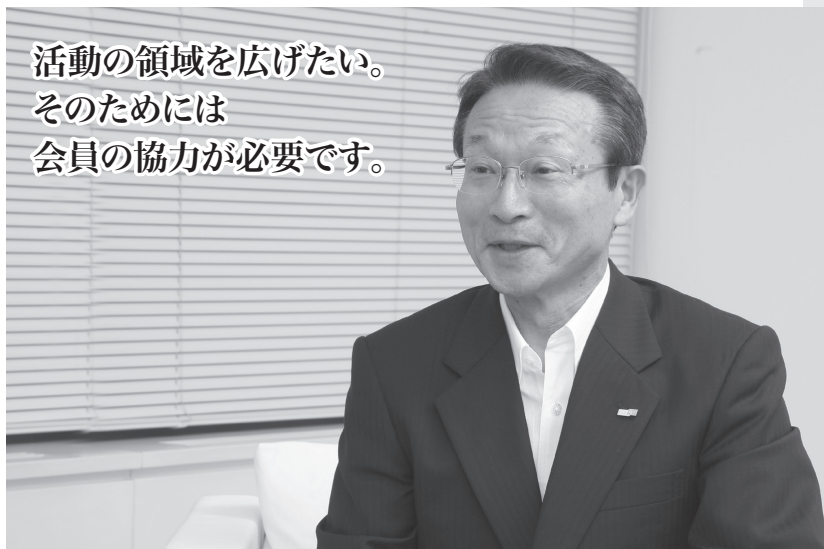
前原：子どもたちは好奇心旺盛です。外から来た講師に興味を持っていて、下を向いていても講師の話には耳を傾けています。話を聞いて心に火が付いた子どもは少なからずいます。未来の日本を良くするためには、教育しか手がありません。すべての大人が教育に対して大きな責任を負っていると思っています。

杉江 和男

2010年度 学校と経営者の交流活動推進委員会 委員長
(DIC 取締役社長執行役員)

1945年北海道生まれ。70年北海道大学大学院工学研究科修士課程修了後、大日本インキ化学工業(現・DIC)入社。2001年取締役経営企画部・海外管理部・広報部管掌、2002年常務取締役、2004年専務取締役、2006年代表取締役副社長、2008年代表取締役副社長執行役員、2009年4月代表取締役社長執行役員に就任。2002年10月経済同友会入会、2006年度より幹事。2004～05年度創発の会副会長、2005～06年度対内直接投資推進委員会副委員長、2006年度経済政策委員会副委員長、2007～08年度対内直接投資推進委員会委員長、2009年度企業経営委員会副委員長、2010年度学校と経営者の交流活動推進委員会委員長。

活動の領域を広げたい。
そのためには
会員の協力が必要です。



より良き教育現場の実現に向けて ー交流活動実践10年の思いー

学校と企業・経営者の交流活動推進委員会は6月22日に、10年間にわたる活動の集大成として報告書「より良き教育現場の実現に向けてー交流活動実践10年の思いー」を発表した。出張授業や教育フォーラムを通じて感じ取った学校教育のあり方について、子どもや教育関係者へのメッセージとして綴ったものである。

*詳しくは <http://www.doyukai.or.jp/policyproposals/articles/2010/100622b.html>

1 中学生に望むこと

中学生は“自己”を意識し始める多感な年代。それだけに外からのメッセージを素直に吸収する柔軟性を持つ。人生の先輩から、多様な仕事や人生経験を聞くことで、中学生は自分なりの社会の役割についての思いを深めてほしい。

自分の将来についての不安を解消し、自分の良さを知り、個性を伸ばし、自分にとって最適な人生を歩んでもらいたい。

- ・生きがい(人生の目標)を探そう
- ・チャレンジ精神を持とう
- ・“基本”を大事にしよう
- ・人とのつながりを大事にしよう
- ・本物と接し、本物から学ぼう
- ・身近な人の仕事ぶりを見よう
- ・今打ち込めることがなければ、まずは勉強しよう

2 高校生に望むこと

職業や社会がより身近に迫っている高校生。“自己”の確立、いわゆる大人になることを目指して、大きなステップを踏む重要な時期である。自己の確立に苦心しつつも、真剣に努力している姿を私たちは間近に見ることができた。多くの高校生が目指す高校生像は、私たちの思いと大差ないと感じる。この機会に、私たちが思う生き活きた高校生像を語り、共有したい。

- ・論理的に考える習慣を付けよう
- ・社会常識を身に付けよう
- ・人としての基本的な人格を形成しよう
- ・コミュニケーション能力を磨こう
- ・生きがい、目標を持ち、その先に働くことの意義を見いだそう
- ・グローバルな視点と身近な地域への関心を持とう
- ・日本語力、英語力(外国語力)を高めよう
- ・近現代史と全教科にわたる基礎学力を身に付けよう
- ・時事問題への関心と読書の習慣を付けよう

3 教員に望むこと

私たちは“世の中に貢献する人を育てること”が教育の主たる目的の一つと考えている。教育とは何たるかをしっかりと見据え、質の高い教育を実践しておられる先生方にたくさん出会った。私たちは今後も経営者ならではの視点で先生方を大いに支援していきたい。先生方には、教育という現場を聖域にすることなく、広く外の世界に支援を求めている。

- ・教育に情熱と使命感を持つ
- ・子どもたちに自身の夢を語り、夢を持たせる
- ・子どもの個性を尊重し、考える葦(あし)を育てる
- ・子どもたちに実体験をさせ、生き活きた教育を実践する
- ・保護者と正面から向き合い、家庭と学校の役割について認識を共有する
- ・外部との接触を通じて自己研さんする

4 校長に望むこと

校長の存在は企業トップと同等のものであり、“学校現場からの教育改革”が、現在の校長に求められている使命ではないかと感じた。校長のリーダーシップの下、学校改革が成功した例を多く見聞してきた。一方で、改革に積極的でない校長もいる。その違いは何か。そこに焦点を絞ってメッセージを伝えたい。

- ・学校経営に情熱とビジョンを持つ
- ・校長という職位をスタートラインととらえる
- ・学校の最高経営責任者と自覚し、世界と社会の変化を積極的に取り込む
- ・教員を活かし、モチベーションを高める
- ・学校と社会をつなぐ“架け橋”としてのリーダーシップを発揮する
- ・生徒の手本となり、“道德教育”の要となる
- ・組織運営の管理能力は、職位に就任した瞬間から発揮する

5 保護者に望むこと

人生における成功とは、“心身ともに健康”で“自分の個性を活かし”つつ“世の中のために役に立つ”充実した人生を送ることであろう。

現代の複雑多様な時代、子どもが“人間力”ともいべき基礎力を身に付けるには、学校教育だけではなく、家庭での教育が不可欠である。かつての日本の家庭では、それを気負うことなく日常生活の中で行ってきた。「子は親の鏡」。すべての保護者に担ってもらいたい。

- ・世の中が大きく変化していることを理解しよう
- ・子どもに“一人の人間”として接しよう
- ・かわいい子には旅をさせろ!
- ・子どもの個性を尊重しよう
- ・社会の一員としての基本を身に付けさせよう
- ・地域社会や学校活動へ参画し、支援しよう
- ・子どもとのコミュニケーションを増やそう
- ・感受性・感性を涵養(かんよう)しよう
- ・『待てない』『褒めない』『やらせない』の3ナイを払拭しよう

6 国に望むこと

私たちが学校現場を訪問し、先生方との会話や現場の状況などを垣間見て感じたことを踏まえ、国、地方行政にメッセージを届けたい。

- ・教員が現場で生徒と直接向き合う時間を増やす
- ・補助教員もしくは補助的役割を担える人材を学校に派遣する
- ・社会の変化を、的確に学校改革につなげる

7 地方行政に望むこと

多様な試みによる改革の成功例は既に存在している。各自治体・学校は、ぜひこれらを学ぶことから始めてほしい。

- ・教育への体系的アプローチを推進する
- ・教育改革のパフォーマンス・チェックの仕組みをつくり、公表する
- ・地方行政がリーダーシップをとる
- ・保護者に対する“子育て教育”を推進する
- ・子育てのために、地域の教育力、人的資源を有効に活用する

8 企業・経営者に望むこと

国づくりは人づくり、すなわち教育である。「企業は人なり」ともいわれるように、社会的責任の一つとして、より多くの経営者が教育への更なる貢献に取り組むよう私たちは願う。

- ・社会貢献の柱の一つとして教育支援を
- ・従業員への啓発活動と意識改革を
- ・経営者自ら教育への貢献を(一人1回以上の出張授業)

出張授業 生徒の感想文から

墨田区立文花中学校



推進委は7月13日、墨田区立文花中学校に12名の講師を派遣し、出張授業を行った。ここに、授業に寄せられた生徒の感想文を一部抜粋して紹介する。感想文からは、生徒たちが講師の話当真に受け止め、出張授業が生徒たちの進路や人生観に影響を与えていることが読み取れる。



1年2組の生徒

私たちが今、礼儀正しくしなければ、次の世代、また次の世代へと、どんどん悪くなってしまうのかなと思います。大人になって子どもができたなら、その子どものお手本になるよう、今からしっかりしたいと思います。

私はよくメールで「ありがとう」や「ごめんね」を言っていました。それでは意味がないことに気付きました。これからはきちんと言葉で伝えることにします。

私はバスに乗るとき、つい座ってしまうことがあります。でもお話を聞いて、なるべく座るのをやめようと思いました。どうしても座りたいときでも、「我慢」というものをがんばってやってみたいと思います。

林先生の話はとても大事なことで、それを生かせば、いい人になれると思いました。「ありがとうございました」というたった11文字はとても大切な言葉で、人をハッピーにさせる言葉じゃないかなと思いました。



林 達夫氏

アークデザイン
取締役社長

1年1組の生徒

社会に出たら、「人格・人柄」が大切だという話が、私の中で一番心に残っています。私は将来、人の役に立てる仕事をしたいと思っています。かなうかどうかは分かりませんが、今日の岩下先生の話をもとに、今の私の夢に少しでも近付けるよう努力していきたいです。先生が以前アメリカで働いていたという話を聞いて、私も外国で仕事をしてみたいなと思いました。

特に印象に残ったのは、夢のお話です。簡単な夢よりも難しい夢の方がいいというお話です。どうしても思いましたが、「難しい方が面白い」という理由でした。そんな考え方もあるのだなと思いました。

経済に国境はないという言葉が心に残りました。

私たちが大人になるころには、外国の会社が増える、と聞いたので、少し楽しみになりました。だから日本語以外の言葉を勉強したいと思いました。



岩下 正氏

ローン・スター・ジャパン・
アクイジションズ 会長

1年3組の生徒

原田先生のお話は、実際にあったことを物語のように話してくださったので、すごく分かりやすかったです。戦争の時の話は、もっとたくさんの人たちに伝えていってほしいです。

中国から日本へ帰るときの話を聞いて、本当に命がけで帰ったことがよく分かりました。私も原田さんのように誰にでも平等に接して、誰にでも優しくして生きていきたいなと思いました。

いろいろなことを成功させるには、勉強や努力が大切なんだなと思いました。努力なしに何かを成功させることはできない。できたとしても良いとはいえないんだと、あらためて分かりました。

私は勉強をするのが嫌いです。でも原田先生が「中学でしっかり勉強しておくで後が楽」と言っていたので、私は中学の勉強をしっかりやって後で楽になりたいので、がんばりたいと思います。



原田 靖博氏

フューチャーアーキテクト
フューチャー経済・金融研究所長

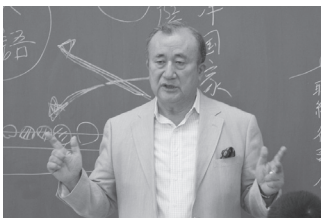
1年4組の生徒

英語は国際共用語というふう置き換えて勉強するなど、いろいろなことを教えてもらいました。サッカーの日本代表の川島選手も外国のチームでプレーするため、中学校の時から一生懸命英語を勉強していてすごいなと思いました。

私は英語があまり好きじゃないけれど、藤田先生の話聞いて、好きになりました。それがうれしかったです。

夢をかなえるために英語をもっと勉強しなきゃと思うので、藤田さんの言っていた勉強法を活用しようと思います。一時間がとても短く感じられるような楽しい話ばかりでした。

勉強するのが当たり前と思っていたけど、勉強しなくてもできない人があると思うと、勉強ができることはありがたいことなんだと考えなくてはいけないなと思いました。



藤田 實氏

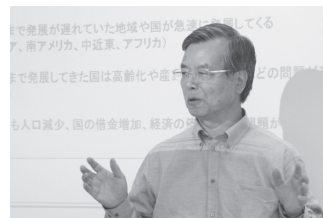
オグルヴィ・アンド・
メイザー・ジャパン
取締役副会長

2年1組の生徒

今の自分たちに必要なこと、知っておかなければならないことをあらためて実感させられました。今までのぼくは、ただ勉強して、高校、大学へ行き、社会人になればいいと思っていました。でもこの考え方では世の中には通用しないと思いました。今の若い人たちには「コミュニケーション」が必要でした。自分の考え方、何を伝えたいのか、どう工夫すれば相手に理解してもらえるのか考えて話すことが必要です。ぼくも将来のことを考え、家で家族との会話、学校での友達との会話で生かしていきたいと思いました。

少しだけ将来のことを考えるようになり、自分も「こんなところでのんびりしてられない」と思いました。

「質問することは大事」というお話があったのですが、ちゃんと質問して分からないところをなくすのは、やっぱり大事だなと思いました。



篠田 紘明氏

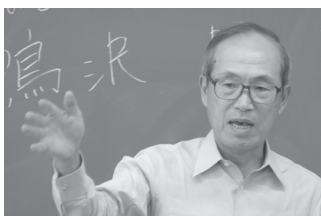
バンテック
相談役

2年3組の生徒

いろいろなことにチャレンジをすると、良いことも悪いこともあるけど、自分のためになる、ということをやってくださり、私もすぐあきらめるのではなくて、チャレンジしてから、というのを実践していきたいです。

「好きなこと、得意なことを伸ばす」という言葉は、鳴沢さんの人生によって生まれたものなので、言葉の重みを感じました。この言葉は、これからの進路を決めるぼくにとって、目標となりました。役に立たないと思っている今の授業もいつかは何かの役に立つように、人生は良いこと、悪いことが起こることを知ったので、あきらめずにがんばりたいです。

「誰でも優れた才能を持っている」という言葉は、とても勇気づけられました。私にもあるんだなとがんばれる気持ちになれました。



鳴沢 隆氏

野村総合研究所
取締役副会長

2年4組の生徒

先生の大好きな言葉の中でも、「練習は不可能を可能にする」という言葉が気に入りました。これからは自分の長所を知り、それを自分の武器として生活できるための収入を得るため、一生懸命働いていきたいです。

「中学校の友達是一生の友達」というのは、本当なのかと思いました。でも、これを聞いて、もっと友達を大事にしなきゃなと思いました。小・中・高の教科書は捨てない方が良く聞いてびっくりしました。小学校の教科書は捨ててしまったのでショックです。

これからの日本の社会とか、まったく興味がなく知らなかったもので、話していただいているいろいろ分かりました。

ぼくは国際化社会に向けて、一番苦手な英語の勉強をがんばりたいと思います。人生は長いので、毎日コツコツとやるつもりです。



林 明夫氏

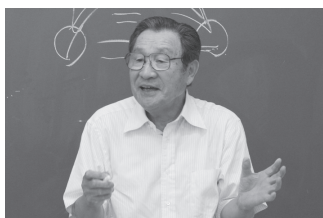
開倫塾
取締役社長

3年1組の生徒

同前先生の話聞いて、いろんなことに挑戦をして、自分の個性や才能を見つけられたらいいなと思いました。今、勉強をしている理由はなんとなくでしか分からなかったけど、社会に出て、学校で教えてもらっている基礎は、大人になってからも役に立つし、必要なことなんだなと少し分かった気がします。

「三日坊主、何もしない人より3日も偉い」という言葉がものすごくいいなと思いました。友達をつくる、仲良くなるときに、自分も努力しよう、と言っていたのを参考にしたいと思います。

才能はすべての人にあるということや、知識はなければいけない土台にあたるものということ、まず始めてみるのが大切だということがよく分かりました。先生の話聞いて、興味があることは何でも取り組んでみようと思いました。先生の話はとても力が入っていて、心が動かされました。



同前 雅弘氏

大和日英基金
副理事長

3年2組の生徒

ぼくは、プリントに書いてあった「中学時代の夢」のところを読んで感動しました。夢ではなく目標を持つことが大事だと、そんなふうに取り組みました。ぼくは夢も目標もなく、ただひたすら明日の见えない今日を歩むだけでした。そんなぼくは、小島先生の「中学時代の夢」を読んで、目標を持ちました。いつかみんなから慕われる大きい人間になりたいと思いました。

何に対しても自分の意志を持ち、人とは違った考え方や物の見方をされているところがすごく尊敬できました。今回のお話で、自分の内での考え方が少し変わりました。本当にいい経験でした。

「夢はない」と言ったとき、私はすごく驚きました。けれど、夢のない方が仕事に集中できる、みたいなことを言われたときに、そうなんだと思いました。一つの仕事に熱中できることはすごいと思いました。



小島 秀樹氏

小島国際法律事務所
弁護士・代表パートナー

3年3組の生徒

ぼくは将来やる事がなくて困っています。ぼくは英語が好きで、外国人とお話したいです。英語なら世界共通で将来の選択肢が増えると思うからです。自分の人生だから自分で決めて明るい人生を送りたいと思います。そのためには、とりあえず勉強します。今日、人生の大先輩に教えてもらったことは、この先絶対に役に立つと思います。

富田先生が実際にしていた勉強の仕方とても良いやり方だと思います。私は、分からなくなると、どうしてよいのか分からず、そのままにしてしまいます。これからは、分からなかったら、教科書を読み返してみたいと思います。また苦手な科目は特に予習をしてから授業を受けたいと思います。

世界では英語が大事ということだったので、基本は言えるように英語の勉強も頑張っていこうと思います。



富田 純明氏

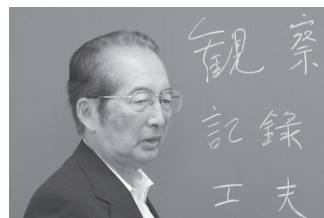
日進レンタカー
取締役会長

3年4組の生徒

和田先生の話でとても印象的であったことの一つは、志がとても大事ということでした。志は常に高く持っていれば、必ずかなうということでした。自分も社会に出て志を必ず持ちたいと思いました。

やっぱり社会に出ると大変だなとあらためて分かりました。人生にはチャンスや挫折が半端ずつあるということ、誰しもが経験しているんだなと思いました。

最初はあまり興味がなく聞いていましたが、だんだん和田先生の話聞いてうちに興味がわいてきて、和田先生の「かきくけこ」はとても勉強になりました。「観察」「記録」「工夫」「計画」「行動」の5つは今後役に立てるように頑張りたいです。また「おい悪魔」も勉強になりました。「怒るな」「いばるな」「あせるな」「くさるな」「負けるな」の5つを自分がピンチのときに、この言葉を思い出して乗り越えたいです。



和田 裕氏

日本イノベーション
取締役社長

興味を持って打ち込み 自慢できるものを育ててほしい

杉江 和男 氏

学校と経営者の交流活動
推進委員会 委員長
DIC 取締役社長執行役員

世の中に不要な仕事はない

私は、印刷インキを製造し、世界に販売している DIC という会社で働いています。これ、見えますか？インキの原料になる黄、赤、青の粉です。この粉と合成樹脂を混ぜ、いろいろな色のインキを作ります。

表面がキラキラ光るもの、特殊メガネを掛けると立体に見えるものなど、印刷物も進化しています。このように、見る人が「きれいだな」「面白いな」と思える印刷物の材料となるインキを作っているのです。

世の中にはいろいろなものを扱う会社や職業があります。パンを例にとっても、材料の小麦を作る人、小

麦を育てる肥料や農薬を作る人がいます。売買する人もいるし、運ぶ人もいます。小麦を粉に挽く製粉会社もある。そしてパン屋さんがパンを焼き、小売店が売ります。

パンが生産者から消費者に渡る過程では、どの仕事も欠かせないということが分かるでしょうか。みんなが助け合わないと、私たちの今の便利な生活は成り立たない。だから職業に上下はなく、すべて尊いのです。

社会に合わせ自らを変える

DIC が作る印刷インキは、新聞にも使われています。ところが最近では、新聞を読まない人が増えていすね。「ケータイがあれば情報が得られるから新聞はいいや」と考える人が増えているのです。このままだと、印刷インキがあまり必要とされなくなる。そうすると、会社は社員に給料を払えなくなり、みんなが困ってしまいます。だから、新聞とは違う、別のインキの用途を開拓していかなければならない。人も企業も、社会に合わせて変化していかなければならないのです。

興味のあることを追求する

みなさんは、勉強とは何だと思えますか？ 私は、過去に積み上げられた知識を学ぶことだと思います。私の仕事でいうと、先輩たちが蓄積した印刷インキの知識を知っていないと、新しい印刷インキは開発できない。たくさんの知識を覚えることは、ただ単に知識量を増やすだけでなく、新しく何かをするためにも大切なのです。

もう一つ、何かに興味を持つことも大切にしてください。興味があれば、努力できます。イチロー選手も浅田真央さんも、野球やフィギュアスケートに興味があるから、つらい練習でも頑張れるのです。

興味の対象は、途中で変わってもいいのですよ。私も小学校時代は警察官に、中学校時代はパイロットになりたかった。でも、身長が低過ぎてなれなかった。途中で変わってもいいので、その時々で興味のあることに打ち込み、何か一つでも人に自慢できるものを育ててほしいと思います。



2年2組の生徒

先生の、「すべての職業は尊く、職業に上下はない」という言葉が印象に残りました。すべての職業は何かしらの役に立っていて、社会に貢献しているんだということが、よく分かりました。私の夢はディズニーランドのカメラマンになることです。来てくれた人たちの一生の思い出になるような笑顔いっぱいのすてきな写真を撮りたいと思っています。

職業に上も下もないという話に感動しました。ぼくの父の職業は八百屋です。そのことを友達にはかにするように言ってきました。今までは言い返せなかったけど、次に言われたら、先生の言っていたことを教えてあげようと思います。

インキがどういうふうになられていたのかが、詳しく分かりました。ちょっと変わった印刷をするだけで立体的に見えたり、3Dメガネをつけて見たりといろいろと楽しかったです。